

「凡」メンバーのライフコース  
ーワーカーズ・コレクティブで働く女性たちの特徴ー  
お茶の水女子大学 飯塚和子

目的 先駆的ワーカーズ・コレクティブ「凡」で働く女性たちの生活と労働過程を、構成主体であるメンバー個人の次元に焦点をあて、そのライフコースを分析した。本報告ではワーカーズ・コレクティブ「凡」で働く女性たちのライフコースの特徴と世代変化、およびメンバー個人にとってのワーカーズ労働というものの持つ意味を明らかにする。

方法 1996年7～8月、ワーカーズ・コレクティブ「凡」の全メンバー16名を対象にヒヤリング調査を実施した。ヒヤリング調査の内容は、メンバー本人の経歴、家族構成、生活史と現在の生活状況、「凡」参加の経緯、労働内容・年収、及び「凡」との関わりにおける生活意識や労働意識の変容等である。

結果 「凡」メンバーは、どの世代でも自らの人生に能動的で、積極的な姿勢でライフコースを歩んでいる者が多い。戦前・戦中出生メンバーでは、自己実現に向けての活動意識や態度の形成が明確である一方、家族員との間での価値意識の同一性の形成と乖離への葛藤も混在している。団塊メンバーでは、戦前・戦中メンバーに比べると、矛盾や葛藤という感情や価値観を強く意識することなく割合スムーズに「自分らしさ」を主体的に選択し、自己実現を果たしている。戦後メンバーでは社会的規範性は緩く、自己を表出し自己の価値観に従って生きることが自然体であるように思われる。「凡」メンバーにはどの世代においても、歴史的時間の「時代効果」を前向きに受け止め、「自分らしさ」を拡大化しようとする姿勢がみられる。主婦であるメンバーたちにとって、ワーカーズ・コレクティブ「凡」は、その労働を通して生き方の地平をさらに広げる展開の場となっている。